

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)浜松市中区平田町計画 新築 | 階数 | 地上15F |
| 建設地 | 静岡県浜松市中区平田町字平田東 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域 | 平均居住人員 | 392 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2025年6月 予定 | 評価の実施日 | 2023年3月29日 |
| 敷地面積 | 1,974 m ² | 作成者 | 山口大輝 |
| 建築面積 | 787 m ² | 確認日 | 2023年3月29日 |
| 延床面積 | 8,797 m ² | 確認者 | 田中大介 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 72%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---------------------|--|---|
| 総合 | 周辺環境に配慮するとともに、建物形状や色彩が周辺環境と調和するように計画する。 | その他 特になし |
| Q1 室内環境 | 室内環境向上を目指し断熱性能の向上や遮音対策等を施している。 | Q3 室外環境(敷地内) 道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。 |
| LR1 エネルギー | 設備システムを効率化し、省エネルギー化に配慮している。 | LR3 敷地外環境 ・適切な駐車スペースを確保しています。 ・LCCO ₂ の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。 |
| Q2 サービス性能 | 居室は標準的なベッド等の家具を配置できる程度の広さを確保し、天井高は2.4m以上とすることで優れた居住性能を持つ計画としている。 | |
| LR2 資源・マテリアル | ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ・有害物質を極力使わない計画としている。 | |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

| 1. 建物概要 | | | | | | |
|---------|---------------------|-----|---|--------|---|------|
| 建物名称 | (仮称)浜松市中区平田町計画 新築工事 | BEE | 2 | BEEランク | A | ★★★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | |
|--|--------|-------|---------|----------|------------|
| 重点項目 | 得点*/満点 | 取組み度 | 評価 | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.5 | /5 | | ふつう | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 3.3 | /5 | | ふつう | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 3.4 | /5 | | ふつう | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.6 | /5 | | がんばろう | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | 評価 凡例 | よい 4点以上 | ふつう 3点以上 | がんばろう 3点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | | |
|--|---|--|--|-----|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming) | | 得点 | 3.5 | |
| <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①室内環境向上を目指し断熱性能の向上や遮音対策等を施している。 ②住戸の南側に大きく開口を設けている。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨設備システムを効率化し、省エネルギー化に配慮している。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ⑬有害物質を極力使わない計画としている。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。</p> | <p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ①</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ②</p> <p>Q-1 3 3.2 3.2.1 ③</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④</p> <p>2.2.2 ④</p> <p>2.2.3 ④</p> <p>2.2.4 ④</p> <p>2.2.5 ④</p> <p>2.2.6 ④</p> <p>Q-3 1 ⑤</p> <p>3 3.2 ⑥</p> <p>LR-1 1 ⑦</p> <p>2 ⑧</p> <p>3 ⑨</p> <p>4 4.1 ⑩</p> <p>4.2 ⑩</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪</p> <p>1.2 1.2.1 ⑫</p> <p>1.2.2 ⑫</p> <p>2 2.1 ⑬</p> <p>2.2 ⑬</p> <p>2.3 ⑬</p> <p>2.4 ⑬</p> <p>2.5 ⑬</p> <p>2.6 ⑬</p> <p>3 3.1 ⑬</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬</p> <p>3.2.2 ⑬</p> <p>3.2.3 ⑬</p> <p>LR-3 1 ⑭</p> <p>2 2.2 ⑮</p> | <p>① 外皮性能</p> <p>② 昼光利用設備</p> <p>③ 昼光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p> <p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p> <p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p> | | |
| | "災害に強いしずおか"の形成(Disaster) | | 得点 | 3.3 |
| | <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯耐震等級2相当 ⑰構造躯体劣化対策等級3</p> | <p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯</p> <p>2.1.2 ⑯</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰</p> <p>2.4.2 ⑰</p> <p>2.4.3 ⑰</p> <p>2.4.4 ⑰</p> <p>2.4.5 ⑰</p> | <p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p> | |
| | | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design) | | 得点 |
| | <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲居室は標準的なベッド等の家具を配置できる程度の広さを確保し、天井高は2.4m以上とすることで優れた居住性能を持つ計画としている。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。</p> | <p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲</p> <p>3.1.2 ⑲</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑳</p> | <p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p> | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature) | | 得点 | 2.6 | |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥アプローチ周りに十分な外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> | <p>Q-3 1 ⑤</p> <p>2 ②</p> <p>3 3.2 ⑥</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮</p> | <p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>② まちなみ景観への配慮</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p> | | |